

事業所名 グループホーム海の見える家2号館
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 7月18日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 元看護師
資格・経歴 看護師(34年)、介護支援専門員
B:現職 訪問看護師
資格・経歴 看護師(37年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・山深い高台へと続く坂道を少し上った所にホームはある。ホームの窓からは海が見渡せ、朝日が昇る風景は素晴らしいとのこと。一年中、小鳥の音が聞こえ、山菜や野いちごの採れる山も近くにあり、季節を肌で感じ、心癒される自然環境の中にホームはある。
- ・「入居者のペースに合わせ、自分の家にいるように暮らしていただきたい」との職員の言葉のように、入居者は気の合った仲間とトランプを楽しんだり、職員との会話を楽しんだり、いつものお気に入りの椅子でくつろいだりと思いいい過ごしている。ホーム内には穏やかな時が流れ、入居者は笑顔で穏やかに過ごしている。管理者・職員は、入居者のありのままの姿を支えながら、入居者のペースに合わせた日々の暮らしの実現を目指している。ホーム全体が明るい雰囲気、職員は生き生きと働いている。
- ・系列のグループホームとの定期的な管理者の会議や、職員間の交流や連携があり、日々の介護サービスの質の向上や、職員育成に役立っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・前年度よりの課題であった運営推進会議については、民生委員・家族などの参加メンバーで4月と9月に開催された。今後は、2ヶ月に1回定期的に開催し、民生委員・行政・地域住民代表者など幅広い立場の人が参加する会議となるよう積極的に働きかけ、運営推進会議の意義や役割を充分理解してもらい、参加メンバーの意見がサービス向上に反映して活かせるようになる事を期待する。
- ・現在、避難訓練の実施が途切れているが、非常災害に備え、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう再度の実施を望む。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい介護、楽しい会話、相手の立場に立った処遇の実践」の運営方針のもと、「いつも楽しく、ほがらかに」をモットーに、家庭的環境の中でその人らしく穏やかに、自分の家で暮らしているように生活していただくことをめざしている。 ・認知症の入居者は、職員の心を映す鏡と言われるように、職員の接し方が入居者に敏感に伝わり、生活に影響する。そのため職員は、いつも笑顔でケアすることを大切にしている。 ・管理者は、職員の個々の良さを認め、やりがいを持って働ける、よい人間関係、よい職場環境作りにも努め、よいケアに繋がることをめざしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペースを大切にしており、入居者がどのように過ごしたいかを把握し、希望に添えるように取り組んでいる。 ・職員は、常に入居者が過ごす居間の温度・湿度・換気に気を配り、入居者が気持ち良く過ごせ、外気との温度差などで生じる体調の乱れを防ぐ努力をしている。 ・職員は、入居者の話を謙虚にしっかり聞くように努め、その人にとって慣れ親しんだ言葉で話し、安心感を与え、落ち着いて過ごしてもらるように努めている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの生活歴・経験を把握し、得意分野で力を発揮してもらえよう、お花の先生だった方にはお花を生けてもらう、縫い物が得意な方にはぞうきんを縫ってもらうなど、出来そうなことの役割・楽しみごとの場面作りを行っている。手伝ってもらった後は、「ありがとう」の感謝の言葉を伝えるようにしている。 ・入居者とプライベートな会話を交わす時は、プライバシーに配慮し、大きな声を出さないように気をつけ、入居者の人格を尊重した態度で接している。 ・プライバシー保護の観点から、面会簿から個人の面接カードに変更し、事務所内で保管している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策		○
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組		○
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルームに、介護スタッフの心構え3原則、「叱らない、怒らない」「せかせかと仕事しない」「忙しい時も笑顔でケアする」を貼り、日々基本に立ち返る機会を持ち、サービスの質の向上に向けて努力している。 ・行実施後は、必ず感想・反省を記録に残し、次回の計画に活かすようにしている。 ・問題発生時は、ヒヤリ・ハットを記録に残し、職員一人ひとりが自分のこととして捉え、対応についても一人ひとりの考えや意見を共有し、再発防止に繋げている。系列ホームとも事例を共有し、再発防止に活かせるように努力している。 		